

次の時代を読み解く

NEXT keyword

狭い地域を突然の強雨が襲う「ゲリラ豪雨」は、珍しい現象ではなくなりつつある。土砂災害のほか、都市部では道路の冠水や建物への浸水被害などが多発。各自治体は対応を急いでいるが、被害を最小限に食い止めるためには企業・個人の対策も欠かせない。そこで注目を集めているのが、建物の開口部に設置する止水製品だ。ゲリラ豪雨が本格化する季節を前に最新の止水対策製品を追った。

ゲリラ豪雨対策

多発する豪雨 年々増加傾向に

ゲリラ豪雨は発達した積乱雲が引き起こす。上空に寒気が入り込むなど地上との温度差が大きくなり、暖かく湿った空気が激しい上昇気流で上空に運ばれると積乱雲が急速に発達。やがて雲に蓄えられた大量の水が大粒の雨となって地上に降り注ぐ。

とが多い。しかし、気象条件によっては同じような場所でも積乱雲が次々と発生することもあり、激しい雨が数時間にわたって続くこともある。

非常に激しい雨や猛烈な雨は、傘がまったく役に立たず、視界が悪くなるため自動車の運転は危険だ。土

被害の拡大防ぐため 企業・個人も対策を

アスファルトやコンクリートに覆われた都市部は雨水が地中に浸透しにくい上、商業施設や地下鉄など地下空間の利用も拡大している。毎時50ミリの雨を降ると排水能力の限界を超え、道路や低地の冠水、アンダーパスでの車両の水没、地下街への浸水などの被害が発生してしま

う。都市の排水能力を高めても、排水先の河川などが氾濫する恐れもある。各自治体は雨水貯留槽・貯留管の設置などを進めているが容易な事業ではない。浸水被害を軽減するためには、企業や個人の対策も必要になる。

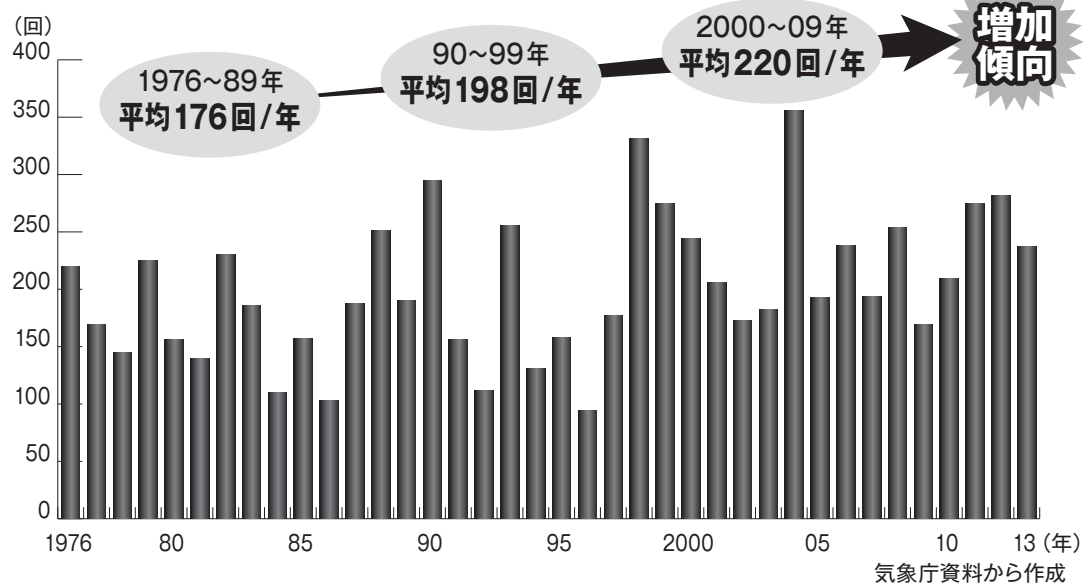
多彩にそろった 止水対策製品

同社の止水製品「止めピタ」は、倉庫や工場、店舗、ガレージなど建物開口部のシャッターに取り付ける簡易型止水シートだ。マグネットが組み込まれたシートをシャッターに固定し、ステンレス製の重しで地面に密着させて建物内部への水の浸入を防ぐ。

「止めピタ」は、長さ95センチ、幅20センチの専用袋に収納できる。重さは5〜20センチと軽く、専用袋にコンパクトに収納可能。女性でも簡単に持ち運べる。「これまで重機で土のうを積んでいたが、止めピタは簡単・手軽に設置・撤去できる。浸水も最小限に食い止められた」と好評する利用者が多い。

同社はオフィスビルや商業施設、マンションなどの正面出入口に設置する「止めピタ（フロントタイプ）」も開発した。基本的な仕組みはシャッタータイプと同じで、事業継続計画（BCP）対策として導入する企業も多い。また、新設の建物に

短時間強雨の発生回数（1時間50ミリの降雨、全国1000地点当たりの年間観測回数）



増加傾向

ゲリラ豪雨は、数日前から対策ができる台風などと異なり、局地的な豪雨をもたらす積乱雲の発生場所を事前に予測することが難しい。雨の降り出しから浸水が発生するまでの時間も短い。そこで有効な対策の一つとして注目されているのが、短時間で手軽に設置できる止水製品の活用だ。止水板の設置に助成金を交付する自治体も多い。

独自に開発したシートは樹脂製で厚さは約0.2センチ。柔軟・強じん



止水シート・補強材・床置きウエーシートは、長さ95センチ、幅20センチの専用袋に収納できる。

同社の止水対策製品は、雨が多い東南アジア諸国からの引き合いも多いという。今後も製品バリエーションの拡充を図り、国内外で浸水に強い都市づくりに貢献する考えだ。

広告

企画・制作＝日本経済新聞社クロスメディア営業局

